

お寺にある素敵なものを、発信していきたい

ユジュ

第二号

平成21年3月15日発行

ユジュ

「YUJ」とは「瑜伽」とも書き、サンスクリット語で、「結ぶ、繋ぐ」を意味します。YUJを手にとった方とお寺が良い縁で結ばれますように。

日本最初の訶利帝母
出現の地、金倉寺の

訶利帝母例祭(春市)

五月十日(日)、天台寺門
宗別格本山 金倉寺に於い
て、訶利帝母尊御縁日法
要祈願を行います。

訶利帝母とは梵語の音
写であり、漢語には鬼子
母神と言います。大田南
畝の狂歌「恐れ入谷の鬼
子母神」は皆さんも聞い
たことがあると思います。
鬼子母神は多くの子供を
持つ神様として有名で、
その数は五百とも千とも
言われています。そのた

訶利 帝母

め子供を守護する神様と
して、また子授けの神様
としても有名です。その
鬼子母神が日本で最初に
出現したと言われるのが
この金倉寺なのです。

そもそも鬼子母神は『法
華経』の中で、『法華経』
を護持する者を守る」と
とお釈迦様に宣言し、日

蓮宗を中心に信仰の篤い
神様です。先の「恐れ入
谷の鬼子母神」というのも
東京都台東区にある日蓮
宗の真源寺の鬼子母神を
譬えたものです。

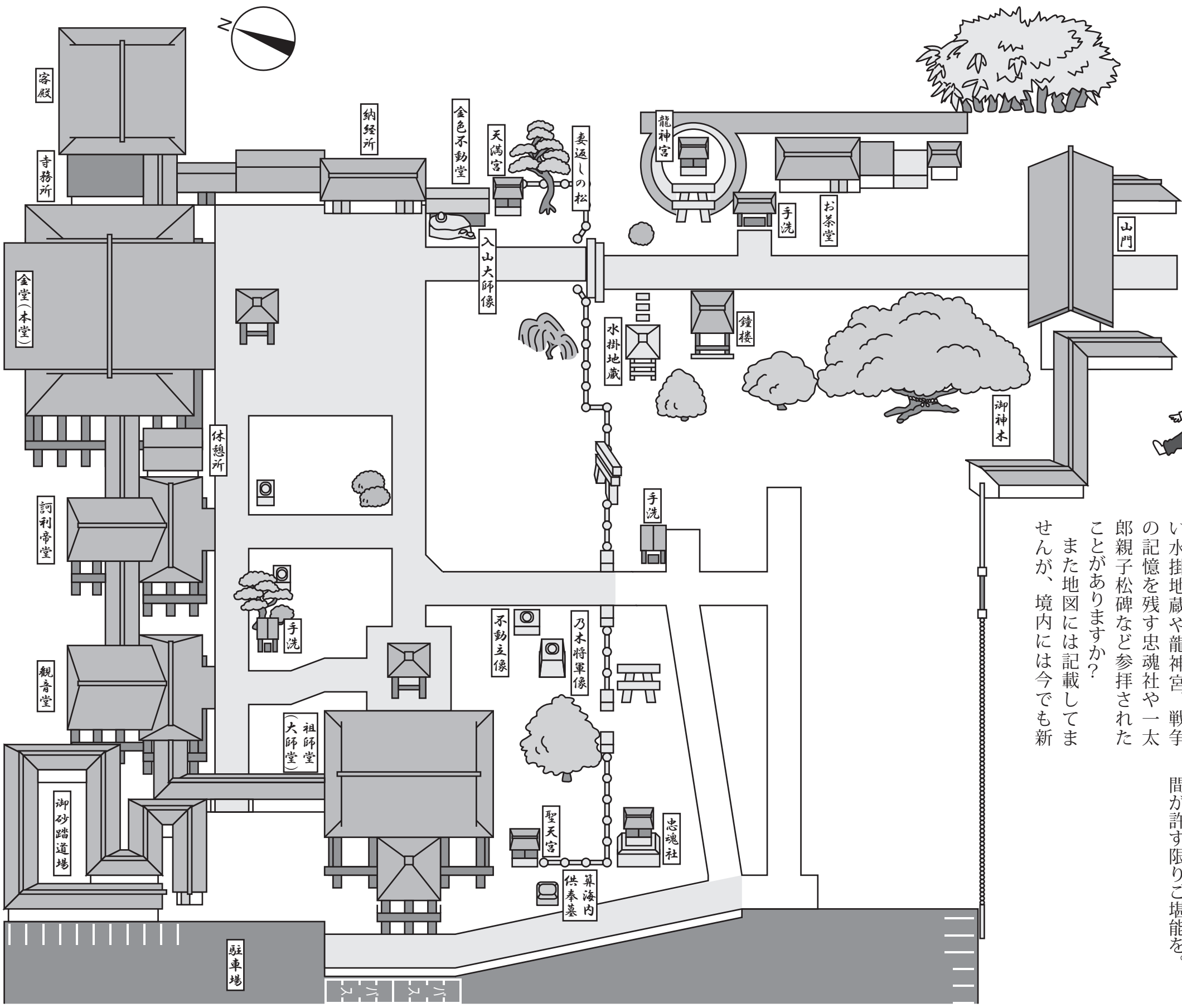
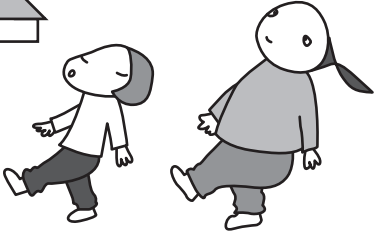
金倉寺に鬼子母神が出
現したのは、円珍さんが
五歳の時です。金倉寺境
内に突然と天女が現れ、
円珍さんにこう言いまし
た。「あなたは三光の一人
明星天子の精であり、虚
空蔵菩薩の仮の姿です。
私はあなたと昔からの因
縁があり、あなたは将来
仏法を発展させる人です。
だから私はあなたを守る
しましょう。」

この天女が鬼子母神、
つまり訶利帝母だったの
です。このように金倉寺
は訶利帝母と非常に因縁
の深い寺であり、この訶
利帝母の縁日に合わせま
して、今年は五月十日(日)
に大般若転読会が行われ、
当日は子安・子授の祈願
も承っております。

また五月九日(土)・十
日(日)は金倉寺境内にて、
金蔵寺こどもまつり実行
委員会によるこどもまつ
りも開催しております。
どうぞご家族、ご親族等
お誘い合わせの上、当山
へご参拝下さい。

大般若転読

金倉寺 境内図



たまにはじっくり、金倉寺を探索。それもいいな、って思ってた下さる皆さんに活用して戴くため、この地図が誕生しました！

八十八箇所の一寺として、また近くのお寺として参拝すると見落としがちですが、実は金倉寺には見所がいっぱい！地元の方の信仰が篤い水掛地蔵や龍神宮、戦争の記憶を残す忠魂社や一太郎親子松碑など参拝されたことがありますか？

また地図には記載してませんが、境内には今でも新

しい歴史が刻まれています。例えば皆さんの愚痴を聞いて下さる「ぐち聞きわらべ」、また駐車場からの参拝者の皆様を本堂に案内する七福神、その最後にお待ちしている金色の〇〇天様！？

このように金倉寺では新旧含めて、参拝される皆さんをお待ちしています。時間が許す限りご堪能を。

「氣になる？」
「氣になる！」



その二、薬師如来

今回は、金倉寺の本尊でもあります薬師如来についてお話ししましょう。

薬師如来は、正式名称を薬師瑠璃光如来といいます。薬師さまといわれ親しまれている仏様です。持物を持たない如来の中で例外的に人々の病氣や障害を治すために薬の入った薬壺を左手に持っています。生きていく人間の病氣、苦しみ、災難をこの世で救う、いわゆる「現世利益」の仏様として知られ、金倉寺をはじめ数多くのお寺に安置されており、人々の信仰の中心となっています。また、

仏さまにはだけ安置してある事は少なく、脇侍、眷属（仏、菩薩に特定して従属する使者のこと）が一緒です。

薬師如来には右に日光菩薩、左に月光菩薩という脇侍が祀られ、薬師三尊といえます。菩薩とは、如来の次に位し、将来如来になるための修行中のものです。ただしこの二菩薩は兄弟と言われており、日光菩薩が兄、月光菩薩が弟で、その父親が薬師如来とも言われます。

この他に十二神将と七千夜叉という眷属を従えることもあります。その十二神将のうち日本でいちばん有名なのは、県内琴平町にお祀りしてある金比羅大権現で、元はこの十二神将の宮毘羅大将なんですよ。



『信ずる心②薬師如来』
飯塚幸謙 集英社

小僧の室 自習室



その2. 円珍さん①

金倉寺は天台寺門宗の開祖智証大師の誕生寺として、天台寺門宗別格本山とされています。智証大師というのは醍醐天皇より送られた謚で、在世時は円珍という名のお坊さんでした。

円珍さんは日本の四大師の一人に数えられ、弘法大師空海と供に、二大師が讃岐国（現在の香川県）出身です。実は円珍さんの母は空海さんの姪で、円珍さんは空海さんの一族にあたるのです。

円珍さんが三歳の時、空海さんは幼き日の円珍さんを見て、その非凡な才能に「智慧童子」と名

づけて、将来高野山へとやってくることを望んだと言われています。

円珍さんは弘仁五年（八一四）に讃岐国那珂郡金倉郷（現在の金蔵寺町・金倉町一帯）で生まれ、幼少の頃の名を広雄といいました。八歳の時には『因果経』というお経を読みたと言いつつ驚かせ、十歳の頃には『毛詩』・『論語』・『漢書』・『文選』などを暗誦できたという程賢い子供でありました。

円珍さんは十四歳の時、故郷を離れ、京へと入ります。そこで叔父の天台僧である仁徳に随い、比叡山に登るのですが、その器の大きさに、仁徳は自分の手には余ると考え、当時の天台座主であった義真和上に託されるのでした。（次回に続く）



『智証大師 円珍』
小林隆彰 東方出版

■編集後記

哲済 気温も上がり、ポカポカと暖かい日も増えてきたね。春ももうそこまで来てるって感じるわ。鼻と共に（笑）

香祥 今回は、金倉寺の境内図を作成したよね。花粉症の人もそうじゃない人も、地図を片手に境内をぶらぶら探索してもらいたいな。

哲済 そうやね。お寺に居る僕らでもいまだに新しい発見があるしね。その背景にあることも含めて是非皆さんにも金倉寺のことを知って貰いたいね。

香祥 五月の春市の際に、探検してみてくださいね。その頃には、花粉飛んでないし（笑）

平成二二年三月十五日発行
編集・発行 金倉寺
発行人 村上法照

お問い合わせは
〒七六五-〇〇三二

香川県善通寺市金蔵寺町二六〇
TEL 〇八七七一六二一〇八四五
yuj@kagawa-konzouji.or.jp